



土、種、作物に愛される

(公財) 自然農法国際研究開発センター

理事長 伊藤 明雄



これまでの表題は「土、種、作物を愛する」としていましたが、愛するという表現はおこがましいと気づき、表題のように変えました。

さて、日本の農業政策の転換に大きな可能性を示唆する「有機農業推進法」が成立し、平成19年「有機農業の推進に関する基本的な方針」が制定され、行政による推進体制など様々な施策が講じられてきました。昨年は、基本方針の5年に一度の見直し時期にあたり、私どもの他、民間の有機農業推進団体などから見直しに関する政策提案を行い、新たな基本方針が決まりました。その主な見直しポイントは、①有機農業の推進及び普及の目標として、取り組み面積の0・4%（現在）から1%への倍増、②新規参入者に対し、農業者の研修受け入れ拡大や給付金などを活用した支援、③有機種苗の

確保のための情報発信、④有機JAS認証取得のための手続き簡素化や支援、⑤地域に適合した技術の確立、⑥有機農業の推進を支援するアドバタイザー制度の検討、などとなっております。次期基本方針はさらに日本における有機農業を推進するための具体化が図られる見通しです。財政赤字の行政による公助には限界があるのかと思いますが、私どもも互助・互助を高めて、自然農法、有機農業の拡大に取り組んでいきたいと願っております。

近年、アメリカでは家庭菜園が脚光を浴び、実施者が急増しているようです。これは、ミシェル・オバマによる有機家庭菜園のキャンペーンの影響もあると思われるが、子供の肥満問題が深刻となっているアメリカで、食生活の改善に大きな関心が集まっているということでしょう。

家庭菜園は、誰しも人間が生きるためにその食を自分で確保するという、その一端を担うものであり、また、食の安心安全を願う上で大切なものとなっております。その一方で、野菜栽培を通して自然の「真・善・美」に触れ、様々な感動や気づきをいただくことができます。滋賀県のある小学生がレタスのタネを紙コップにまき、大切に育てていました。その小学生は、小さなタネから緑の新芽が出てきたことに目を輝かせて感動しておりました。私も毎年いろんな野菜のタネをまきますが、芽が出てきた時はいつも感謝に堪えない思いで手を合わせます。まったく自然は不思議で神秘さを持っています。子育てと同じように、小さなポットなどで野菜を自ら育てることは（育てるのではなく育つのですが）、人間を育てていただいている大自然（太

陽、水、土など）の働きを感じ、人間にとつて大切な謙虚さや優しさを育むことができるのではないのでしょうか。

今年から消費税が上がります。レタスをお店で買えば100円前後しますがタネは1粒1円程度です。自分で育てれば家計も助かります。少し勉強すればタネも自分で採ることもできます。また、狭い畑でも菜園浴（森林浴と同じように土や植物からの他感作用があると考え）と適度な運動によつて健康増進に繋がり、経済効果も上がります。家庭菜園は一石何鳥になるかわかりません。私どもも、専業農家への支援に合わせ、家庭菜園用の自然のタネの供給など情報提供に努めてまいります。日本の農業を盛り上げるためにも家庭菜園の愛好家が増えますことを期待しています。

3